

基督教学研究

第 8 号

論文

キリスト教概念の成立(その一)

—《Christianismos》と「信仰」—……………水垣 涉…一

アルベルト・シュヴァイツァーの「イエス神秘主義」……………笠井 恵二…三

シェリング『自由論再考』(一)

—自由と「地」の世界—……………森 哲郎…六

研究ノート

ルターにおける職業観の問題

—序論的考察—……………早乙女 禮子…七

彙報

昭和六〇年度基督敎学講座講義題目

水垣 涉教授 講義 「ヘブライズムとヘレニズム」

研究 「四世紀におけるキリスト敎

教義の形成」

中村賢二郎人文研究 「ドイツ近世救貧法史」

林 忠良講師 「キルケゴールにおける主体

性の問題」

片柳 栄一講師 「時と永遠—時間論の宗教哲

学的課題」

水垣 涉教授 演習 「Origenes: Commentarii in Ioannem」

「新約学研究入門および『コ

リント人への第一の手紙』原典講読」

荒井 章三講師 演習 「創世記原典講読」

佐藤 吉昭講師 演習 「キリスト敎古代の殉敎思想」

水落 健治講師 演習 「Augustinus: De Magistro」

梶形 公也講師 講読 「Kierkegaard: Krankheit zum Tode」

五九年度論文題目

修士論文

芦名 定道 「カイロスとロゴス—ドイツ

時代における P. Tillich の

歴史的思惟—」

山本 忠義 「キェルケゴールにおける自

己の問題について」

第一号 目次

終末論の二類型	武藤 一雄
キリスト論の視点	森田雄三郎
初期アウグスティヌスの人間学	金子晴勇
Lumen Christi	佐藤吉昭
ルターの „Ordnung“ に関する一考察	早乙女禮子
ルターにおける信仰と礼典	竹原創一
バルト「ローマ人への手紙」における神認識	村山周治

第二号 目次

オリゲネスの「キリスト教理解」	水垣 涉
ゲッセマネ	大島征二
神学における言葉の問題	竹原創一
アウグスティヌスにおけるキリストの 人性について	小池三郎
ギリシヤ語旧約聖書における <i>parabola</i> について	伊藤利行
エルンスト・トレルチにおける „Kom- promis“ の概念	安酸敏真
シェリングに於ける「世界経験」について	森 哲郎
ルターにおける「外」と「内」につい ての一考察	片柳俊子

第三号 目次

キルケゴール研究の方法について……………小川圭治
 エイレナイオスと聖書……………菊地栄三
 ティリッヒの芸術神学について……………田辺明子
 絶対の相の下に……………片柳栄一
 ルターの律法理解……………宮庄哲夫
 聖書へブル語統辞論のテキスト言語学的考察…勝村弘也

第四号 目次

ルターの解釈学は「実存論的解釈」と
 いえるか……………今井晋
 キプリアヌスの教会理解……………佐藤吉昭
 ノビリの印度伝道……………塩谷悟
 テンブルックのヴェーバー解釈をめぐる論争…高野晃兆
 フィロンとキリスト教……………平石善司
 ルターの抵抗権思想における服従の問題……………早乙女禮子
 創世記テキストにおける語りの技法……………勝村弘也
 シェリングに於ける神話と世界……………森哲郎
 ヘクサプラ断片の残存率について……………伊藤利行

第五号 目次

解釈学的教義学の構成について……………森田雄三郎
 内村鑑三と「身体の救い」……………原 島 正
 言語芸術作品としての旧約聖書物語テキスト……………勝村弘也
 エルンスト・トレルチにおける「歴史
 の神学」の構想……………安 酸 敏 真
 教義学的思考における解釈学的循環の問題……………掛 川 富 康
第六号(武藤一雄名誉教授古稀記念特別号)目次
 神学的宗教哲学について……………武 藤 一 雄
 アレクサンドリアのフィロンにおける
 能動と受動の問題……………水 垣 涉
 奇蹟物語へのマージナリア……………大 島 征 二
 アルバート・シュヴァイツァーの聖餐論への
 新約聖書学的批判……………田 辺 明 子

ヨセフスのモーセ物語について……………秦 剛 平
 エイレナイオスの人間理解……………菊 地 栄 三
 キプリアヌスの『棄教者論』考察……………佐 藤 吉 昭
 アウグスティヌスの時間論……………片 柳 栄 一
 ルターにおける「アフエクトゥス」の問題……………今 井 晋
 ルターとアウグスティヌス……………金 子 晴 勇
 神学的構造主義の問題……………森 田 雄 三 郎
 M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と
 パーリア民族の概念……………高 野 晃 兆
 浄土系仏教とキリスト教の救済論の
 一異に関する考察……………原 田 博 充
 日本の伝統的宗教的心情とキリスト教
 との関連について……………名 木 田 薫
 ウィリアム・ケアリの伝道に対する貢献……………塩 谷 悟
 神概念の転換……………小 川 圭 治

第七号 目次

ルターと神学的決定論……………	金子晴勇
Imago Deiとしての精神の自覚の 三一的構造……………	片柳栄一
脚下照顧……………	武藤一雄
M・ヴェーバー「古代ユダヤ教」と カスバリの批判（一九二二）……………	高野晃兆
パウル・ティリッヒと象徴の問題……………	芦名定道

第八号編集実務委員会

執筆者

水垣 涉

京都大学教授

笠井 恵二

京都産業大学助教授

森 哲郎

関西学院大学非常勤講師

早乙女 禮子

大阪体育大学助教授

伊藤 邦幸
小池 三郎
高野 晃兆
林 忠良
片柳 栄一
宮庄 哲夫

一九八五年二月二十五日印刷
一九八五年二月二十八日發行

定価 一〇〇〇円

発行者 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部
基督教文学教室内
發行者 京都大学基督教学会
発行人 伊藤 邦幸
印刷所 河北印刷株式会社

本誌の御註文は、右記、京都大学基督教学会(振替京都三二七二〇七)へ、送料とも一、二〇〇円(定価一、〇〇〇円、送料二〇〇円)を添えてお申込み下さい。

JOURNAL
OF
CHRISTIAN STUDIES
KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol. 8

December, 1985

Contents

Die Entstehung des Begriffs "Christentum"..... Wataru Mizugaki

Jesusmystik bei Albert Schweitzer Keiji Kasai

*Schellings Abhandlung Über das Wesen der
menschlichen Freiheit* Tetsuro Mori

*Zur Frage des Berufsbegriffs bei Luther
Einleitung* Reiko Saotome

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan